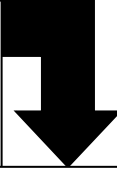


【的中問題！】一部ご紹介致します！

大原：公開模擬試験－第19問

現在G社は、全額自己資本で資金調達しており、企業価値は8,000万円と評価されている。その後、G社が利率4%の借入を行うことによって2,000万円の自己株式を買い消却し、資本構成を変化させたとき、G社の企業価値として最も適切なものはどれか。なお、法人税率は30%とし、MM理論が成り立つものとする。解答は問19へマークせよ。

- ア 8,600万円
- イ 8,800万円
- ウ 9,200万円
- エ 10,400万円



本試験：第15問（設問2）

次の文章を読んで、下記の設問に答えよ。

現在、Y社は総資本10億円(時価ベース)の全額を自己資本で調達して事業活動を行っており、総資本営業利益率は10%である。また、ここでの営業利益は税引前当期純利益に等しく、また同時に税引前キャッシュフローにも等しいものとする。Y社は今後の事業活動において、負債による調達と自己株式の買い入れによって総資本額を変えずに負債と自己資本との割合(資本構成)を1:1に変化させることを検討しており、その影響について議論している。

(設問2)

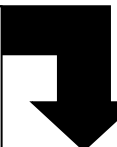
モジリアーニ・ミラー理論において法人税のみが存在する場合、Y社が資本構成を変化させることで、企業全体の価値に対する影響として、最も適切なものはどれか。ただし、法人税率は20%とする。

- ア 企業価値が1億円減少する。
- イ 企業価値が1億円増加する。
- ウ 企業価値が4億円減少する。
- エ 企業価値が4億円増加する。

大原：公開模擬試験－第23問

株式Xと株式Yのポートフォリオの期待収益率および標準偏差に関する記述として、最も適切なものはどれか。解答は問23へマークせよ。

- ア ポートフォリオの期待収益率は、相関係数がゼロのときにのみ、株式Xの期待収益率と株式Yの期待収益率の投資比率による加重平均になる。
- イ ポートフォリオの標準偏差は、相関係数に関わらず、株式Xの標準偏差と株式Yの標準偏差の投資比率による加重平均になる。
- ウ ポートフォリオの標準偏差は、2証券が完全に連動するとき、株式Xの標準偏差と株式Yの標準偏差の投資比率による加重平均より小さくなる。
- エ ポートフォリオの標準偏差は、2証券が完全に連動しない限り、株式Xの標準偏差と株式Yの標準偏差の投資比率による加重平均より小さくなる。



本試験：第18問

ポートフォリオ理論に関する記述として、最も適切なものはどれか。ただし、リスク資産間の相関係数は1未満であり、投資比率は正とする。

- ア 2つのリスク資産からなるポートフォリオのリスク(リターン)の標準偏差は、ポートフォリオを構成する各資産のリスクを投資比率で加重平均した値である。
- イ 2つのリスク資産からなるポートフォリオのリターンは、ポートフォリオを構成する各資産のリターンを投資比率で加重平均した値である。
- ウ 2つのリスク資産からポートフォリオを作成するとき、両資産のリターン間の相関係数が大きいほど、リスク低減効果は顕著となる。
- エ 安全資産とリスク資産からなるポートフォリオのリスク(リターン)の標準偏差は、リスク資産への投資比率に反比例する。

② 財務・会計

(ご注意) 本解答・配点は、令和5年8月7日(月)に一般社団法人中小企業診断協会 (<http://www.j-smeca.jp/index.html>) から発表されたものです。

問題	設問	正解	配点
第1問	—	イ	4
第2問	—	ア	4
第3問	—	エ	4
第4問	—	イ	4
第5問	—	ウ	4
第6問	—	イ	4
第7問	—	ウ	4
第8問	—	ア	4
第9問	—	ウ	4
第10問	—	ア	4
第11問	—	イ	4
第12問	設問1	イ	4
	設問2	エ	4
第13問	—	エ	4
第14問	—	イ	4
第15問	設問1	ウ	4
	設問2	イ	4
第16問	—	イ	4
第17問	—	ウ	4
第18問	—	イ	4
第19問	—	イ	4
第20問	—	イ	4
第21問	—	エ	4
第22問	—	イ	4
第23問	—	イ	4
合計	25問		100